
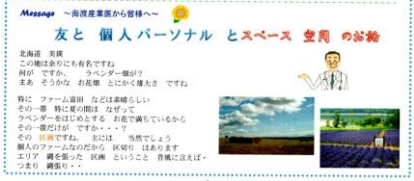




## 海外勤務者の「心の健康管理」に関する考察

ガイドラインステップ	キーワード (6つ以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合お便り健康通信文</li> <li>・海外巡回診療</li> <li>・心の健康問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外での心の健康管理</li> <li>・過酷海外現地勤務者</li> <li>・</li> </ul>
ステップ9			
改善・取組みの背景と課題	<p>企業に於ける「心の健康」問題は一度生じると個人の生産性低下に繋がるばかりか全体業務にも影響を与える得る深刻な状況を呈する。特に発展途上国への海外勤務時に於ける本問題の発生はその対応への迅速性、受診医療の質的問題、言語上の問題からより多くの困難性が生じ得る事態でもある。当然過酷な海外現地工事勤務者を多く抱える私達にも「心の健康問題への対策と予防」は重要な検討課題である。私達はこれまで複数回の海外現地工事勤務者への巡回診療を経験し「心の健康問題の管理・対策」についても検討する機会を得たので新たな改善・方法論も含めて報告する。</p>		
改善・取組みの着眼点	<p>当社での海外勤務者の健康管理としては渡航前、一時帰国時、完全帰国時に健康診断を実施している。各健康診断は保健師同席の元に産業医が全員の個別面談、診察をするという形態をとっている。診察時には 身体所見に加えて「心の健康」に関する問診項目、面談時の会話内容も確認し、その際に得られる全般的意思の疎通性の問題の有無も評価することで総合健康度評価を実施していた。しかしながらこの方策でも過酷環境の海外現地工事勤務者では心の健康問題に悩み、健康管理センターの産業保健職への相談例の発生する事を経験し新たな支援策の必要性が実感された。</p>		
改善・取組みの概要	<p>そこで支援の強化、海外現地の現状把握目的に産業医、保健師が適宜海外現地を周辺医療環境と共に視察訪問し又海外巡回時にはプライバシー保護下で産業医と保健師が勤務者全員への直接の個別面談を実施していく事とした。その際の質問項目としては現地で抱える業務を含む問題点、心身上の訴え、職場への希望事項等も含め、心の問題の訴え等の定量化目的には職業性簡易ストレス調査、Beck 抑うつ度調査も同意者に対しては実施するという方策とした。巡回診療という新たな取り組みの追加で心の健康問題とその管理対策の充実を図った。更に帰国後は現地訪問時の知見を踏まえた各国の海外勤務者全員を対象とした定期的な通信文の発行行うことで本国と現地との絆の強化及び心の健康問題の予防策の提供範囲を拡大していった。</p>		

<p>写真・図表・イラスト</p>	<p>毎月発行の総合お便り健康通信文である「みなとみらい通信」 そのテーマは心の問題も包含する「オメガ个体」「パーソナルスペース」「腸チフスのメアリー」等であり 直接的なメンタルヘルスの指南書とは異なり物語り性を与えた広い興味の提供体としている。その結果外国人勤務者への恩恵も目的となり海外現地の公用語である英語の箴言集の発刊にまで至ってきた。</p>    
<p>効 果</p>	<p>健康診断時ばかりではなく産業医が海外現地訪問、診察を行う事 即ち現場の生活環境下での個別面談を実施し勤務者の回答内容を確認する事は心の健康問題発見の効率を高め更に専門医療への必要性の優先度判定の観点からも有益な支援策である事は周知されている。 私達は更に海外巡回診療を行い同時にその結果を踏まえた海外勤務者、関係者全員を対象とした定期的健康通信文の発刊を行ってきた。この事はインターネットから健康情報を得られる時代にあっても 既知の産業保健職が作成した、又現地訪問経験から生まれたオリジナルの和文は「仕事一筋の心」からの一時的な開放にも繋がり心の安定化効果を与え現地に於けるストレスマネジメント セルフケア対策として有効と評価され本通信文発行は2年間以上に亘り拡大継続している。</p>
<p>この GPS の経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>過酷海外現地勤務では従来のセルフケア、ラインケアでは充分とは思われない為内部産業保健職が現地へ赴き直接面談して健康支援策を講じる方針を立案実施し、その結果上司には伝えにくい問題点の抽出、職制との仲介役も成し得 心の健康増進に寄与したが海外勤務地へ赴き直接面談の実施は地域、頻度、費用等から限界もある。更に直接面談で個別の事例性を減じる事よりも、広く海外勤務者全員の「心の失調予防策」を立案し総体的な対策の確立に力点を置く方が効率性からみても得策と考えられた。このような観点から 私達は現地巡視を実施し職場環境も含む知見から生まれたオリジナルな定期的心身の健康管理の向上を目的とした通信文を作成発刊したところ本国との絆の強化、連帯感の向上、健康管理の実践的方法論伝授という点でも利便を与えたとの評価を得外国人指導者にまで広げた英語の箴言集も追加発行された</p>
<p>参考資料</p>	<p>1) 勝田吉彰. メンタル疾患の管理. 診断と治療 102,526-530,2014  2) 海渡裕郎. 現場レポート 進む！安全衛生. 安全と健康 65:10,62-64,2014.</p>
<p>投稿者</p>	<p>海渡裕郎 e-mail 2015年1月9日</p>